

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産 業 建 設 常 任 委 員 会	会 議 場 所 第2委員会室	
		担 当 職 員 池 永	
日 時	平成29年8月24日(木曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 44 分
出席委員	◎奥村、○石野、並河、藤本、木曾（欠席：明田委員、西口委員）		
出席理事者			
出席事務局	片岡局長、池永主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者一名	議員一名

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

1 開議（奥村委員長あいさつ）

<事務局主任>

（日程説明）

<奥村委員長>

明田委員と西口委員から欠席届が出ているので承知おき願う。

2 案件

商店街連盟との意見交換会に向けて

<奥村委員長>

28日の午後3時30分から商店街連盟と意見交換会を行うこととなった。当委員会では商店街連盟の他に4つの商業団体と意見交換会を行うことを計画しているが、商店街連盟で4団体との意見調整が終わっていないとのことであり、事前の会議という位置づけで行いたい。ただ、先ほど商工会議所の川勝会頭から連絡があり、仲井会長から出席依頼があったとのことである。詳しくは仲井会長と調整いただくよう伝えた。なお、委員会室は話しにくいとのことであるため、場所は3階の302会議室で行う。当日は議長が参加される。また、ものづくり産業課長もオブザーバーとして参加される。

<木曾委員>

会頭ではなく、実際に商工会議所を動かしている担当職員にも来ていただいた方がよいのではないかな。

<奥村委員長>

商工会議所で商店街連盟の運営を担当している人かな。

<木曾委員>

そうである。商店街連盟の会長は、条例の作成の有無を含め、前回提案されたような内容を言われると思う。担当に来てもらい、法的根拠や、上級法も含めてそういうことが可能かどうか、精査した部分を話しておかれる方がよいのではないかな。

<並河委員>

条例というのは、市民から1人100円を徴収するというものかな。

<木曾委員>

おそらくそのような話をされるのではないか。

<奥村委員長>

それが法的にできるのかどうかを把握しておかねばならない。

<事務局主任>

前回の意見交換会の後の月例では、難しいという話になっていたのではないか。

<奥村委員長>

なぜだめなのかをきちんと調べないといけない。

<木曾委員>

商店街連盟からの提案を受け止め、法的にできるのか、規制緩和の中で突破できるのかを含めて調べねばならない。それは難しいのではないかという話だけでは弱い。

<奥村委員長>

税率は、市町村によって幅を持てる。また、今の税率のままでその事業に使うのも1つである。しかし、それに特化したものを市民から集めるというのは難しい。保津川下りの利用税は可能である。湯の花温泉は入湯税をとっている。

<木曾委員>

ゴルフ場利用税もある。

<奥村委員長>

しかし、亀岡市の商店街を利用するための税ができるかどうかは分からない。

<木曾委員>

5月に産業建設常任委員会で視察に行った。税を導入している市町村はないので、商店街の活性化の取り組みをしているところに行き勉強した。委員会としてまとめも行っているものであり、商店街連盟に事前に資料を提供し、我々が調査を行った状況を報告しておく方がよいのではないか。こういう取り組みならできるかもしれないという参考になるのではないか。

<事務局主任>

資料はまとまっているので、提供することは可能である。

<藤本委員>

京都市は拝観料から古都税を徴収するが、それとは異なり、一連盟団体の振興のための税を課すとなると、皆他のところに行ってしまう。また他の類似団体も、自分のところもほしいという話になる。法的に可能かどうかを示し、無理であるなら、その理由をはっきりと言わねばならない。

<奥村委員長>

思いは亀岡の商工業の活性化であり、手法はいろいろとある。ものづくり産業課もいろいろな手法を考えて補助金を出したりしている。今回は商店街連盟の一意見として聞くというのが前提であり、実際にどうしていくのかは次の問題である。川口市のように、多くの企業がボランティアをして、優良な企業を表彰してPRする方法もある。

ではここで、商店街等の実態についての資料があるので、事務局から説明願う。

<事務局主任>

(資料に基づき説明)

<奥村委員長>

アンケートに代えて実態を報告したものである。この資料に関して意見はあるか。

<木曾委員>

実態は厳しい。シャッター街が増えている現状がわかる。本市は中小企業が多いので賃金の上昇の影響が大きく、渋滞も輸送関係に大きく影響している。経済動向調査は必ず目を通し、委員会として実態を知るべきである。経営上の問題点は売上不

振が第1位である。売上不振なのに人件費が上がり、受注もあまりない。これでは店を閉めねばならない状況になる。行政が何にてこ入れをしたら商業が活性化できるのか、しっかり見直さねばならない。うわべの補助金が一時的継ぎあてにしかなくていないことは火を見るより明らかである。それよりも、地に足をつけた活性化をしていかねばならない。

<藤本委員>

商工会議所も法人・個人ともに会員数が減少している。行政から団体に対する補助金も年々減少している。根本的にチェンジできるような対策に取り組まねばならない。亀岡のブランド化をどう行っていくか。大型店舗も経営が厳しいと聞く。何かを起爆剤にして変えなければ、企業がどんどん撤退していく可能性もある。こういうデータを分かった上で、援助のしかたも考えていかねばならない。

<木曾委員>

短期・中期・長期と分けて対応を考えねばならない。短期的には補助金のメニューの見直し、中・長期的には、国道9号の渋滞緩和がある。渋滞緩和しないと商店が成り立たない。大井の工業団地の会長や社長と話す機会があるが、通勤も混み、物を運ぶ時も混むので、亀岡を出ていきたいという人も多い。経済にまで影響している深刻な問題である。府の道路整備を含め、亀岡のことを考えてもらわないといけない。

スタジアムもできるが、ホテルの誘致が難しく、ホテル業界から亀岡に需要がないと言われている。楽々荘のホテルも見直しになった。JRで20分もすれば京都駅に行ける。バイパスもでき、大型のアウトレット等に流れている部分もある。人口も9万人を切り、もう少し考えないと加速度的に深刻な状態になるのではないかと。市長もタイムリーにいろいろと施策を行っているが、それが実効性のあるものとして人口や経済の上昇につながっていない。真剣に考えていかねばならない。

<石野副委員長>

人口の減少をいかに食い止めるか。特に若い人が出ていく。地元で仕事がない現状がある。ここ50年で本市は人口が増えてきたが、また元の人口に戻ることを懸念している。大型店ができ、昔の町並みのところでの商売が成り立たない状況である。新潟県村上市は、同じような状況になった時、まちの道路を広げないこととし、狭いまちの中で昔のまちのすばらしいものをしっかりと守り、観光客がたくさん来ている。亀岡にもよいものがあると思う。旧町の中では、次の世代の人が事業をできず、店を閉めるところが多い。場当たりのいろいろな補助金を出しても根本的に解決できない。京都学園大学も7割ほど移転し、いろいろな事業をしようとした人も50年ほどでだめになった。

<並河委員>

亀岡にスタジアムができ、道路整備が間に合わなければ、もっと渋滞する。これだけ渋滞が多かったら、亀岡から撤退したいという事業主もあると聞く。専門の先生が講演に来られ、亀岡にホテルを建設する希望的観測を言われていたが、ここに1泊したいという何かがないから、すぐ京都市内に行ってしまうのではないかと。旧町の古い町家巡りや、川東の七福神めぐり等、もともと亀岡にある宝に光をあてて、スポット的にいろいろなことをしない限り、宝があっても生かせない。補助金についても、大井神社に芸能人を呼んで夏祭りのイベントをしていたが、お金がなくなってきて今年は盆踊りに切り替えた。一発勝負のお金の使い方では次に生きない。商店街が地域住民と一緒に何かをするというまちづくりが厳しい。1人1000円の税金の話もあったが、地元業者に対する施策は、お金だけではなく、もう少し違うやり方を考えねばならない。商工会議所の加入数が減っているということだが、地

元で商売している人はいろいろな形で地域を担っており、活気がなくなってくるのは寂しい。もう少しうまく行政が手助けできないかと思う。

<木曾委員>

本日の新聞によると、綾部市に産業イノベーションの拠点ができるとのことである。京都工業繊維大学と綾部市、企業等が一体となって取り組もうとしている。京丹後市も行っているが、危機感を持って取り組んでいる。亀岡は危機感がないのか中途半端である。20～30代を含めて、亀岡の人がどういうお金の使い方をしているのか消費動向をしっかりとつかまないと、亀岡の経済を語るのは難しい。若い人は市外のアウトレット等へ行ってどんどんお金を使い、残った高齢者だけで活性化するのは無理である。使う金額が違う。たわわ朝霧等には入ってきていると思うが、トータルでは出ていく方が多いのではないか。

<藤本委員>

商店街があったところに、西友・アルプラザ・イオンが来た。さらに、五条と桂川のイオンモールができて、今は亀岡からそちらに買い物に行く。西友・アルプラザ・イオンの売り上げも落ちてきている。まちの商店街も対抗できず、シャッター街になっている。北陸新幹線が京都南部にいったが、城陽にはアウトレットモールが決定しており、高速道路網も完璧になってきている。中丹地域ではなく、京都市、京都南部、大阪圏で流れている。北陸新幹線があちらに行ってから、亀岡の状況が変わってきている。危機感を持って、どういうまちづくりをするのか明確にし、皆が同じ思いでそちらに向かって進まないといけない。

<奥村委員長>

国道9号は以前、京都行きの車が朝に渋滞していたが、最近は南丹市に行く車が渋滞している。30～40年前と逆になっているのではないか。

<木曾委員>

新光悦村や、八木のジャスコの関係もあり、亀岡以外に通勤する車が増えている。亀岡から先はJRの本数も少ないため、車通勤が多いという実態を聞いている。

<奥村委員長>

4月に舞鶴市に行った。商店街は昼間シャッターが多く、人口も亀岡より少ないが、東舞鶴・西舞鶴を合わせてホテルが多い。福知山市にもホテルがあり、市立病院も大きい。亀岡市より人口が少ないのに、昼間・夜間人口も含めて、全体的・広域的なまちづくりがスムーズにいつている。本市は実際には京都市がメインになってしまい、JRやバイパスなど交通が発達するのはよいが、逆に商工関係が廃れてくるということも考えられる。

<木曾委員>

高度経済成長の時に京都市や大阪のベッドタウンとして人口が増えてきたが、消費はそれほど大きくなかったのかもしれない。ただ住まいする場所であった。それがどんどん高齢化してくると、さらに消費がしぼんでくる。子どももどんどん出ていってしまい、経済がうまくいかないというのが現状ではないか。また、京都市に向けて施策を打ってきたがために、神戸や大阪に向けての商業的な活性化の取り組みができなかったことが今に響いているのではないか。福知山市が良い例である。福知山線がどんどんよくなってから、京都より大阪から来る客の方が圧倒的に多い。そういうことを考えると、どこかにヒントがあるのではないか。

<藤本委員>

京都府北部は自衛隊も原発の補助金もある。舞鶴はアジアのハブ港、観光の入口だという1つの形を描いており、どんどん発展しホテルも建つ。中・南丹は、どういうまちにしていくかが明確になっておらず、森の京都のイベントも中途半端である。

茨木では少し行くとダム工事をしているが、なぜあそこまでは繁栄しているのに、京都府下に入ったらだめなのか。池田・止々呂美から抜ける縦貫道ができ、茨木からのバイパスが亀岡に入って、神戸・大阪の流通圏の中で亀岡がベッドタウンとして発展するというような大きい構想でやらないと、小さいことばかりしては取り残され、陸の孤島になる可能性がある。

<木曾委員>

本市は通過点になるのではないか。

<奥村委員長>

本市は京都市・宇治市に次いで人口が多い市であり、何らかの方法があると思う。

<並河委員>

南丹市の美山は、全国に美山という地名があるが、そこと連携して独自の取り組みをしている。亀岡は地理的に中途半端である。ないものねだりをしては仕方ないので、あるものをどう生かすかである。開発だけがよいとは私は思わない。あるものをどう生かすかに頭を絞って、他にないものが亀岡にあるということになれば、京都市からの入り込みも増えるのではないか。

<木曾委員>

京都市を向いて施策を打ってはだめである。京都市の人は亀岡に来ない。大阪の方が圧倒的に多い。西別院町のユメミファクトリーも、ほとんどが大阪や神戸の人であり、京都市内から来る人は少ないとのことである。もっと道を整備したらもっと来られる。

<藤本委員>

京都・大阪・神戸は土地も高いが、その3方に囲まれた亀岡は、緑もあって土地も安く、住環境も最高である。まちづくりをしっかりと考えた上でそういう位置づけをしていけば、こんなに魅力があるところはないと考える。

<木曾委員>

京都市は亀岡市を全くあてにしておらず、まちづくりにも参加してほしくないと思っている。山林は京北町があり、宇治も近い。そこの整備をどんどん進めている。道路整備を見ても分かる。京都市が全くやる気がないのに、亀岡を向いてもらうのは無理である。ダブルルートと言っているが、縦貫道がダブルルートだと京都市に言われてしまっている。渋滞緩和のために何をするのかをもっと考えていかねばならない。

<奥村委員長>

確かに4車線ない1桁国道は少ない。

<木曾委員>

それだけではなく歩道橋もない。

<藤本委員>

府の補助金も南部に行っているのではないか。

<奥村委員長>

短期・中期・長期といろいろな意見をいただき認識を共有した。そういうことを含めて28日に臨みたい。

<木曾委員>

府や京都市に頼るのではなく、亀岡も9万人近い人口があるので、自分たちで自立する力を持たねばならない。してもらわねばならないことはしてもらわねばならないが、自分たち自身で考えて、自立していくことが必要である。そこへ向けて、府や国に対してどういうことをしていかなければならないかを、我々が訴えていかなければならない。

保津川の開削もまちづくり全体に関わる問題である。大きな地震が来て保津溪がふさがったら亀岡市はどうなるのか。桂川の治水の話どころではない。先日の十津川村のように大雨が降って何カ所か崩れたら、亀岡は湖になる。そのような想像もできていないのではないかな。

谷口元市長が昔、北陸新幹線を亀岡に通して、大阪に向けてやっていったらどうかと言われたが、あながち間違いではなかったのではないかな。国も日本列島全体のことを考えて、そうしていたのではないかな。

3 その他

<奥村委員長>

商店街連盟との意見交換会に向けてよい話ができた。28日はよろしく願いする。

～散会 14：44